

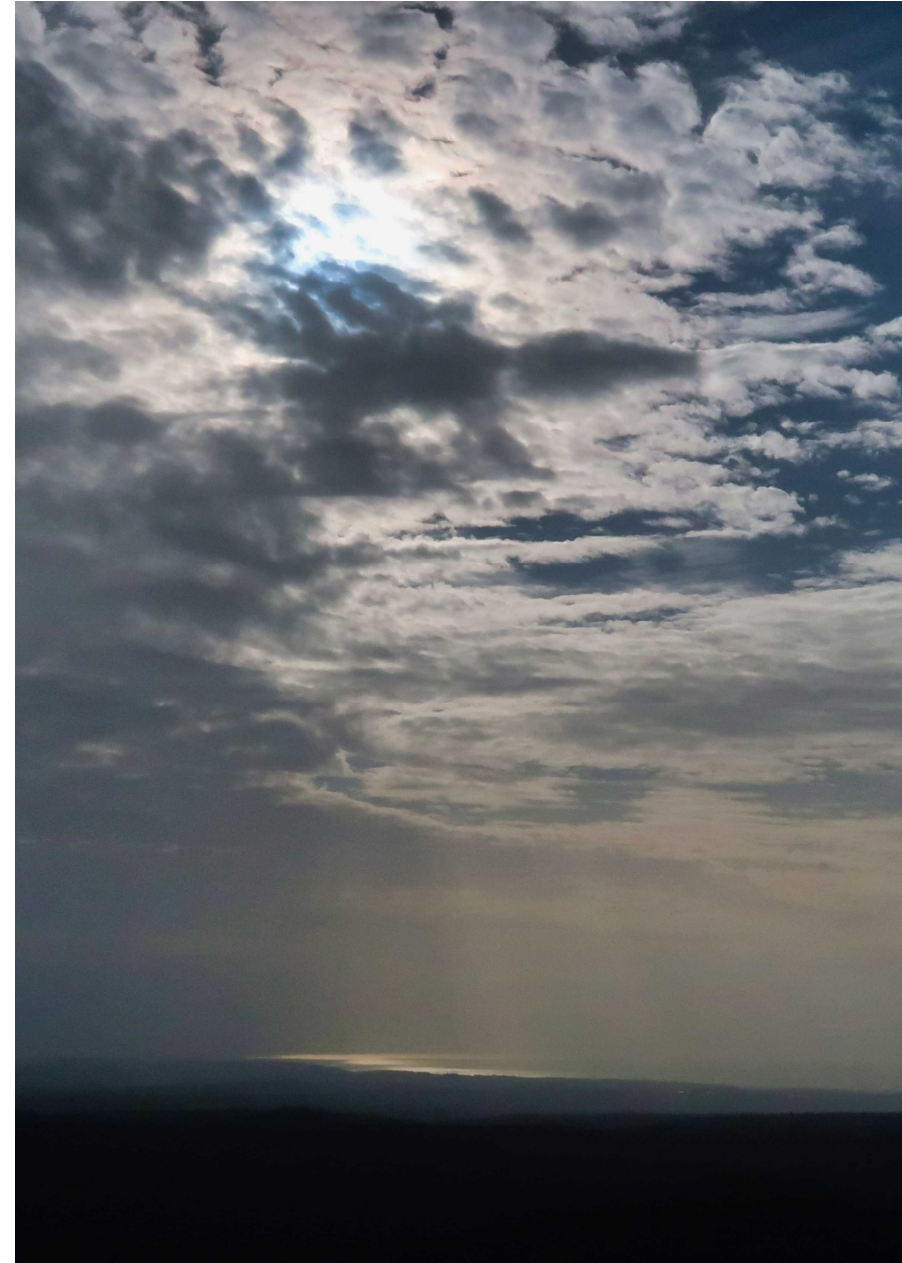
5
士師
聖徒伝 71

「暴虐と 罪と裁き」

士師記9～10章 アビメレク トラ ヤイル

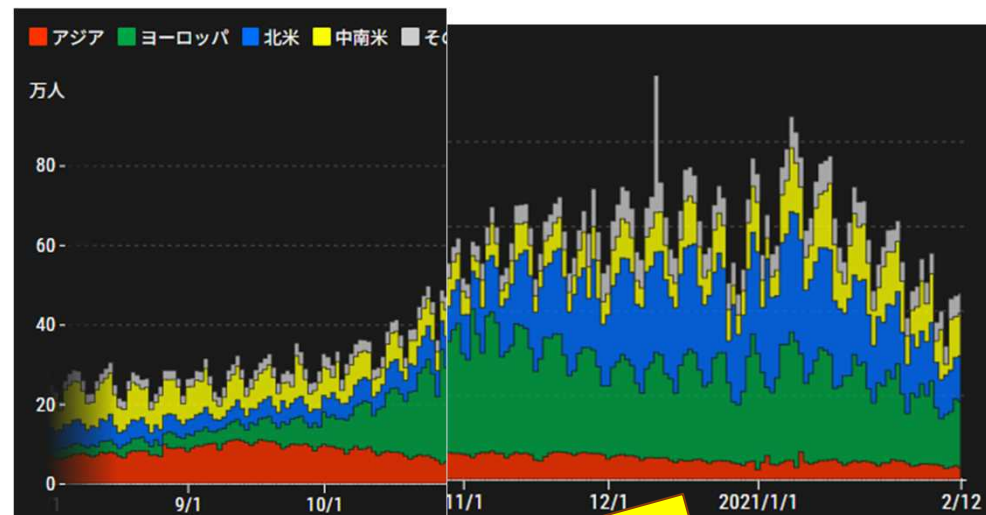
【今日のアウトライン】

- 0. イントロダクション
- I. 暴虐のアビメレク 9章1～21節
- II. 相殺される罪と悪 9章22～57節
- III. 士師トラ ヤイル 10章1～5節
- IV. まとめと適用
 - 臆病者の神の勇士
 - ギデオンに学ぶこと



【コロナ禍の今を確認しておこう】

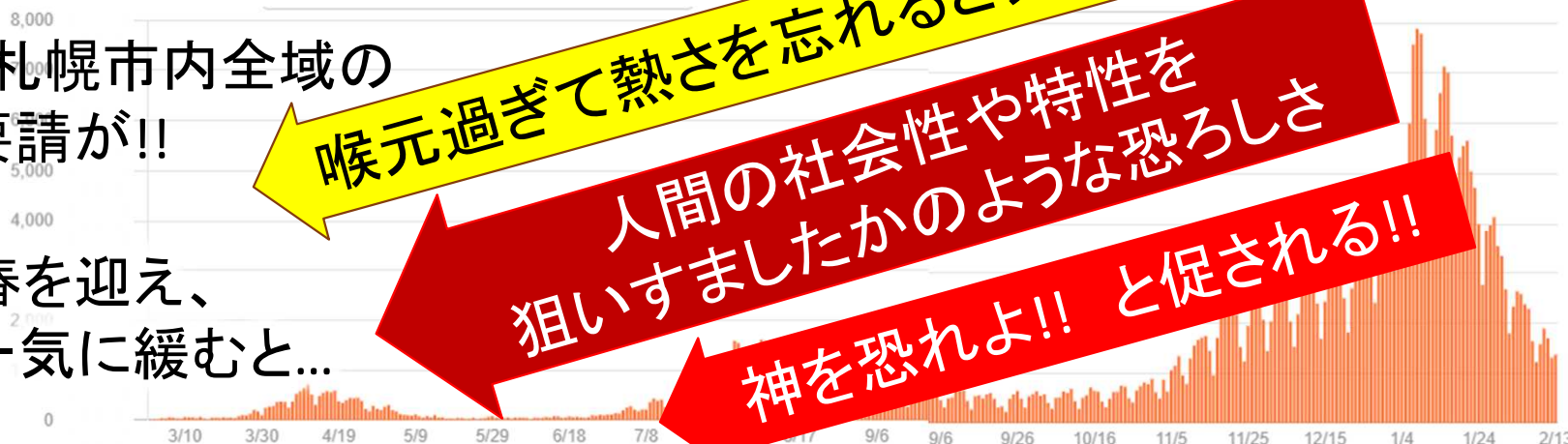
- 世界的に初めて減少傾向に!!
 - ★ ワクチンの効果はまだ限定的。
 - ★ 接触を減らす、密の回避...
効果的な抑制が各地で実施。
- * 日本人の密なコミュニケーションの場は...



- 警戒すべきは、次の波。

- このタイミングで札幌市内全域の飲食店に時短要請が!!

- 高止まりのまま春を迎え、人々の緊張が一気に緩むと...



喉元過ぎて熱さを忘れると次が怖い!!

人間の社会性や特性を
狙いましたかのような恐ろしさ

神を恐れよ!! と促される!!

【無垢の時代】

【良心の時代】

【人類統治の時代】

【約束の時代】

【律法の時代】

【恵みの時代】

【御国の時代】

天地創造

墮罪
~大洪水

バベルの塔事件

アブラハム
~ヤコブ

イスラエル
王国時代
メシア初臨

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

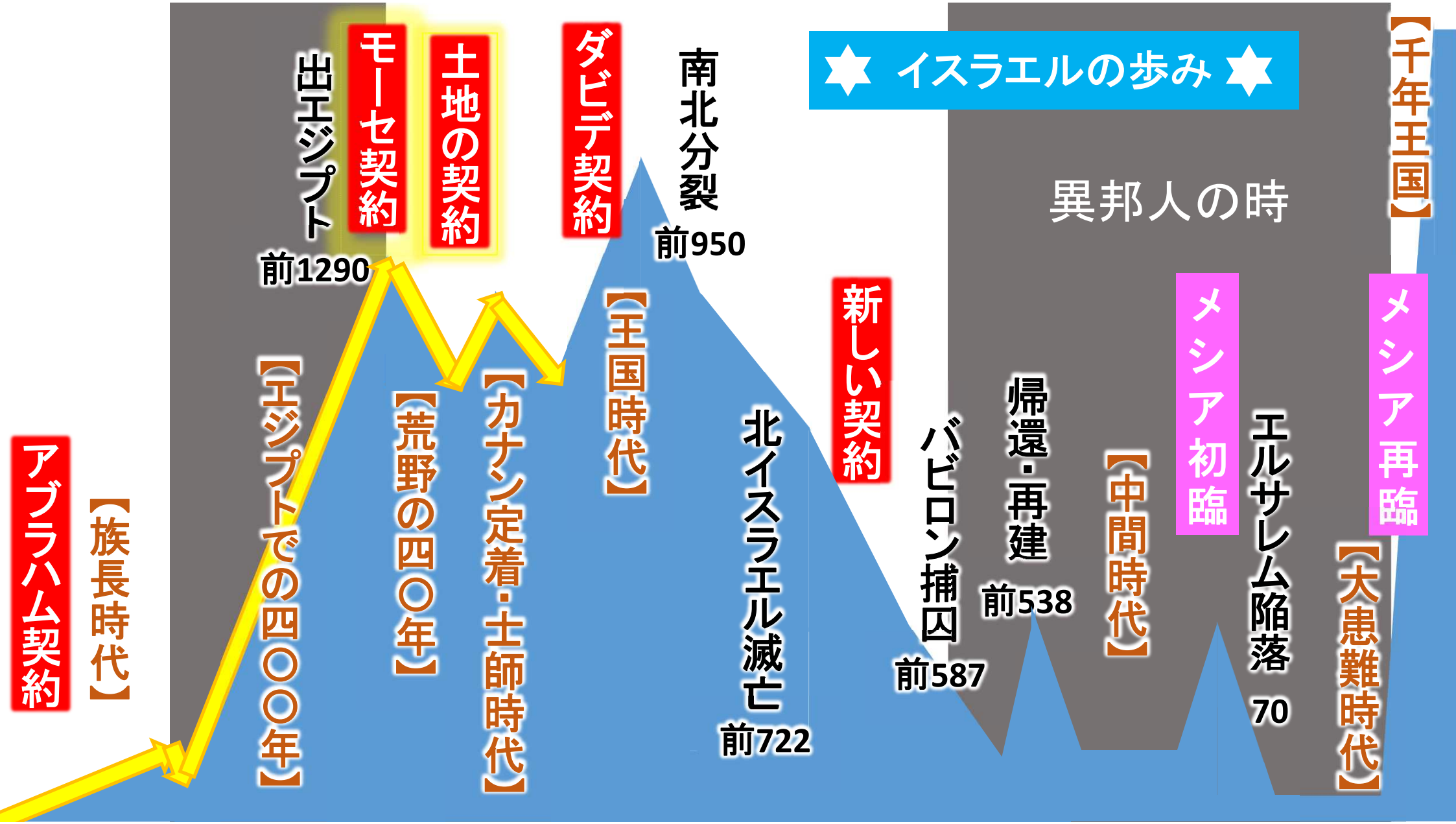
神の約束が、人類と世界の歴史を導く!!

過去

現在

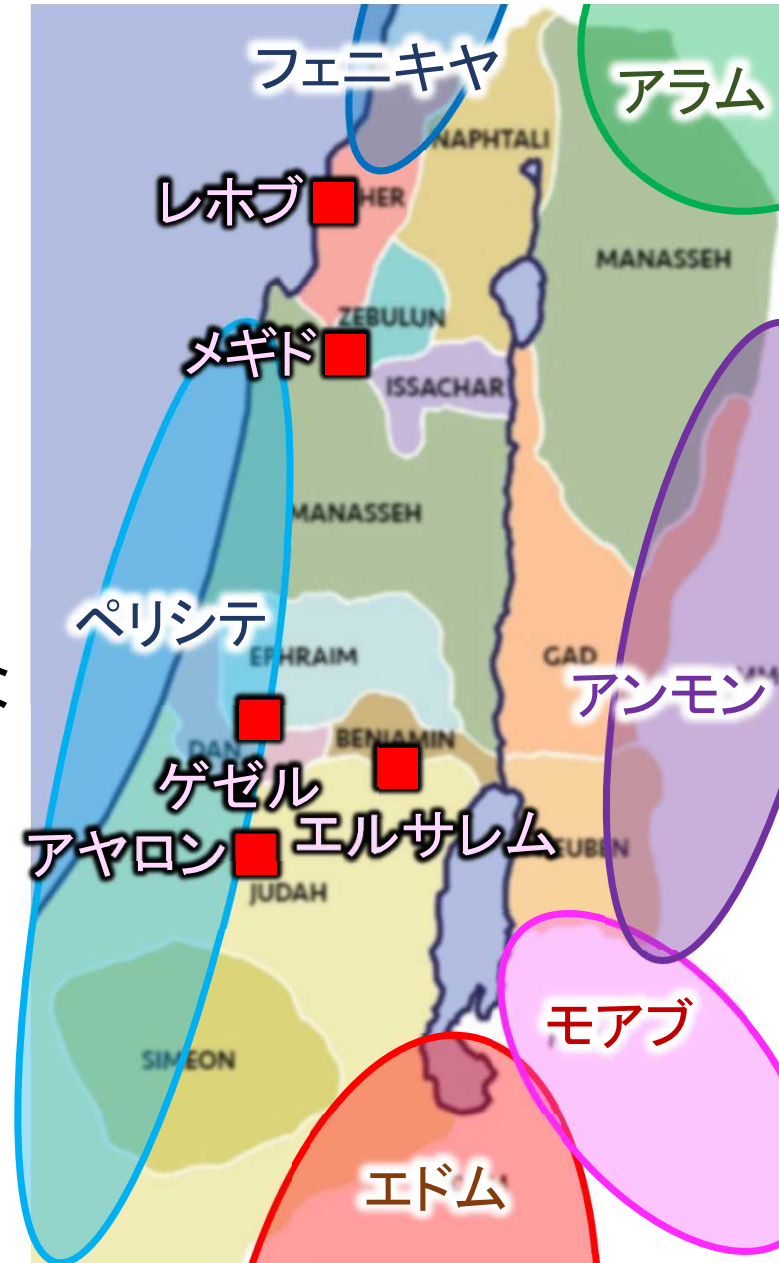
未来

★ イスラエルの歩み ★



【残された土地】

- ヨシュアに率いられたイスラエルは、12部族それぞれの相続地を手に入れた。
- しかし、未征服の地がまだ多く残っていた。
- カナン人の町が要所にあり、周囲にも、強力な民族がいて、イスラエルを脅かしていた。



【士師・さばきつかさ・とは？】

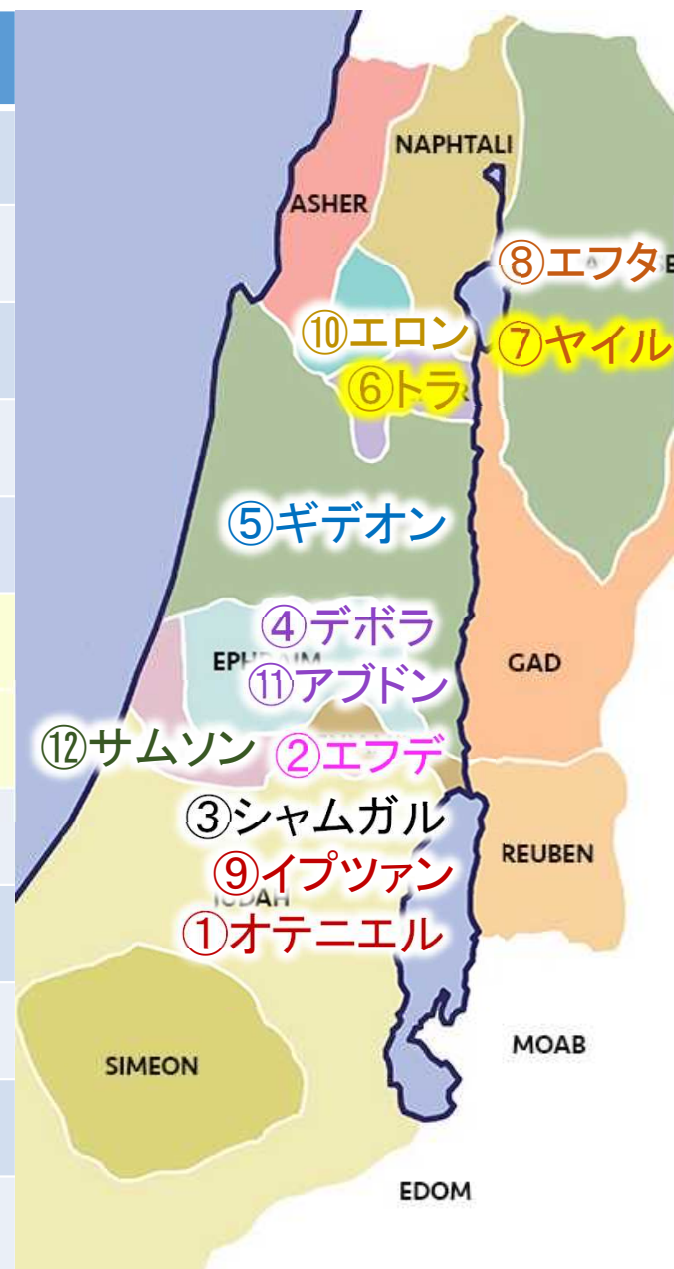
- 神が立てた、イスラエルの一部族のリーダー。
士師という正式な地位があるわけではない。
裁判官。政治的、軍事的指導者。
民の解放者、救済者。➡いろいろな立場を兼任。

【士師記で繰り返されるイスラエルの罪】

- ❶ 背信 ...カナンの偶像礼拝に取り込まれる
- ❷ 裁き ...主が異邦の民を用いてイスラエルを裁く。
- ❸ 悔い改め ...イスラエルは主に助けを求める。
- ❹ 士師による解放 ...主は、士師を送り敵を退ける。



士師	聖書	出身部族	敵
①オテニエル	3:7～11	ユダ	アラム人
②エフデ	3:12～30	ベニヤミン	モアブ人
③シャムガル	3:31	?	ペリシテ人
④デボラ	4:1～5:31	エフライム	カナン人
⑤ギデオン	6:1～8:32	マナセ	ミディアン人
⑥トラ	10:1～2	イッサカル	?
⑦ヤイル	10:3～5	マナセ(ギルアデ)	?
⑧エフタ	10:6～11:40	マナセ(ギルアデ)	アンモン人
⑨イプツァン	12:8～10	ユダ ベツレヘム	?
⑩エロン	12:11～12	ゼブルン	?
⑪アブドン	12:13～15	エフライム	?
⑫サムソン	13:1～16:31	ダン	ペリシテ人

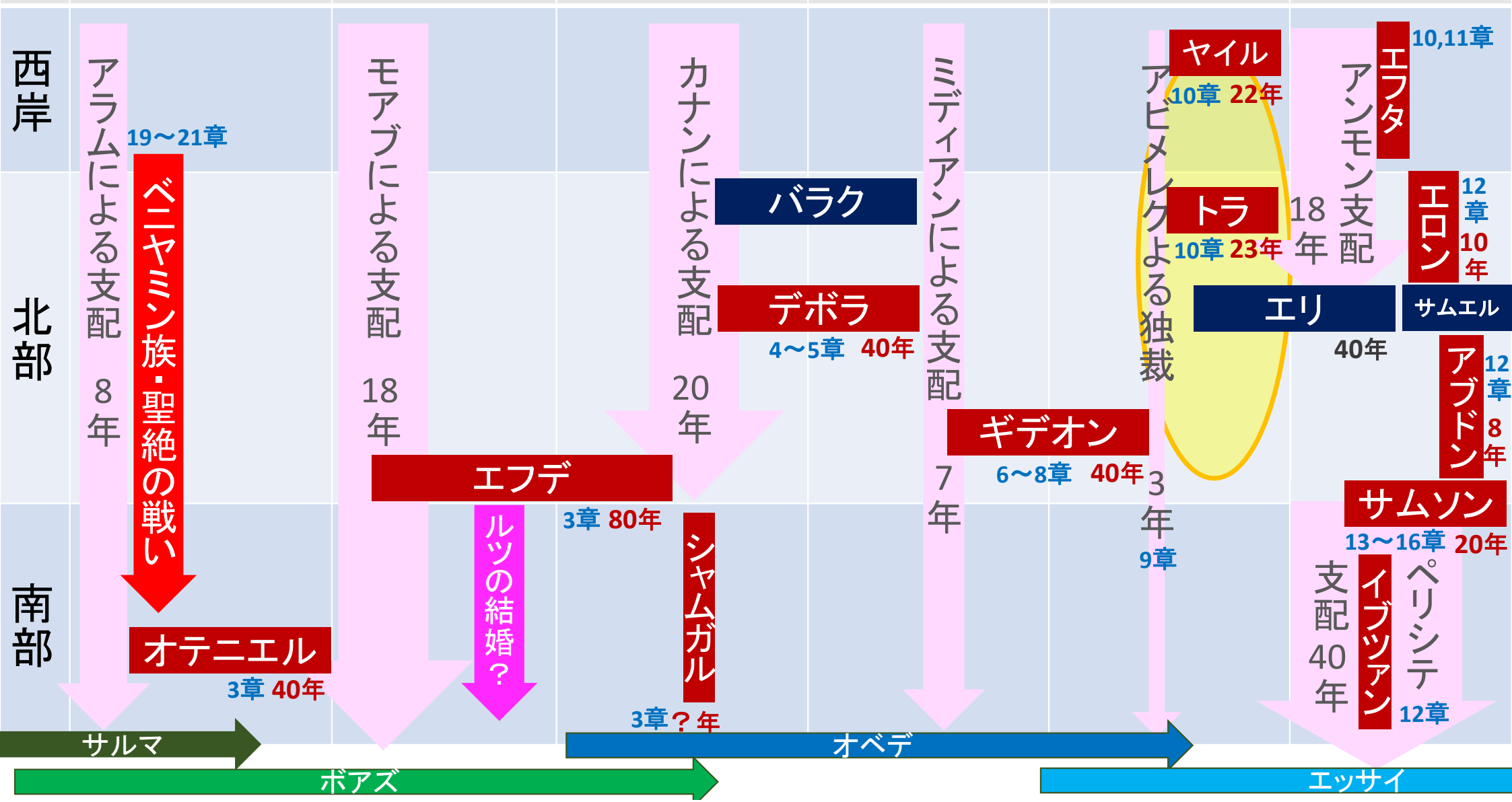


【士師の時代】

BC1200

BC1150

BC1100



【士師ギデオン】 士師7:15～22

- 再び背教し、偶像礼拝に陥ったイスラエルを神は、ミディアン人によって裁かれた。
- ミディアン人の略奪を恐れ、隠れて麦を討っていた臆病者ギデオンを、主は士師として立てられた。
- ギデオンは、マナセ族の小部族の出身だった。
- 慎重さを期す作戦で、300人のギデオン隊は本領を發揮、神の助けを得て、ミディアン軍を撃退した。
- ギデオンが士師を務めた40年、平和が保たれたが、
➔ 平和な期間こそ、むしろ信仰者には罫となる!!



平和の内に進行する
背教と不信仰!!

I. 暴虐のアビメレク

士師記9章1～21章



シエケム

【ギデオンの晩年と死後】 士師8:30～35

- ギデオンは、大勢の妻と70人の息子を得た。
シェケムの側女に産ませた子には、アビメレク(我が父は王)と名づけた。ペリシテ人の王の称号でもある。
→イスラエルは王を立てることを禁じられていたが、
ギデオンは、実質、王としてふるまっていた!!
- シェケムの側女は、異邦人の異教徒？
シェケムの町には、多くの異教徒が混在していた？
- ギデオンの死後、イスラエルはすぐに背教し、
異教の神、バアル・ベリテ(契約のバアル)を崇めた。
- イスラエルの民は、ギデオンの家族を冷遇した。



【アビメレクの企み】 士師9:1~4

さて、エルバアルの子アビメレクは、シェケムにいる母の身内の者たちのところに行き、彼らと母の一族の氏族全員に告げて言った。

「どうかシェケムのすべての住民の耳に教えてください。『あなたがたにとって、エルバアルの息子七十人全員であなただたを治めるのと、ただ一人があなただたを治めるのとでは、どちらがよいか。私があなただたの骨肉であることを思い起こすがよい』と。」

- シェケムの親族は、アビメレクになびき、バアル神の神殿に献げられていた銀800gを資金提供した。アビメレクは、これで無法者たちを雇った。



手前からゲリジム山、
シェケムのある谷
エバル山

【アビメレクの謀反】 士師9:5～6

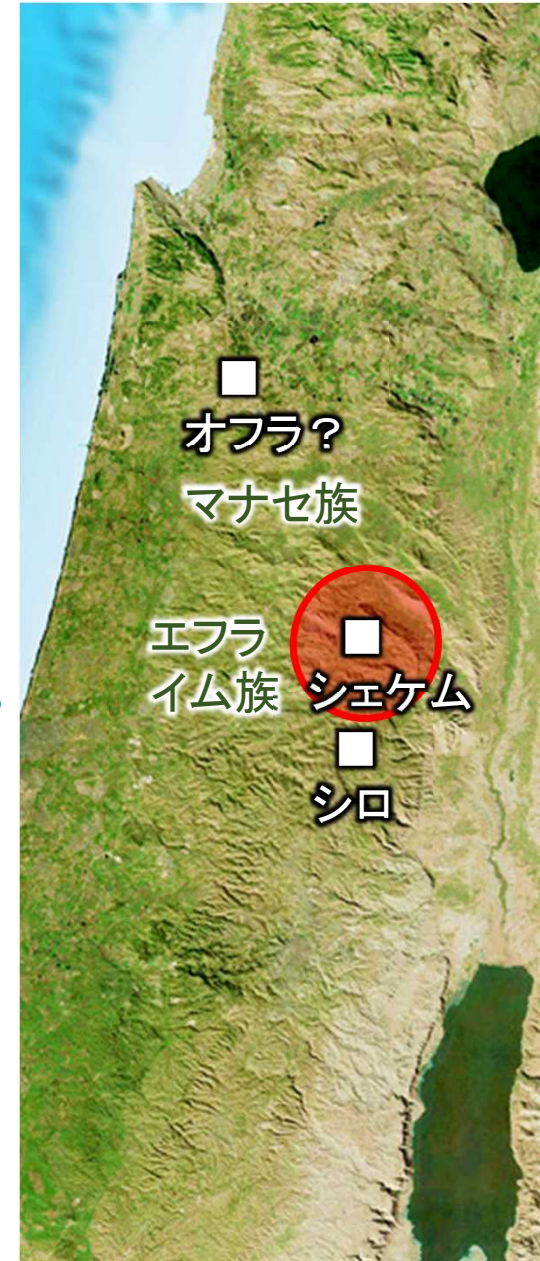
アビメレクはオフラにある彼の父の家に行って、自分の兄弟であるエルバアルの息子たち七十人を一つの石の上で*殺した。しかし、エルバアルの末の子ヨタムは隠れていたもので生き残った。シェケムのすべての住民とベテ・ミロのすべての人々は集まり、行って、シェケムにある石柱*のそばの檜の木の傍らで、アビメレクを王とした。

*バアルの祭壇？ ...バアル神にささげた？

* 石柱 ...エバル山にあった、律法の碑。

モーセが命じ(申27:4)、ヨシュアが建立。

■アビメレクは、シェケムを中心に支配圏を持った。



【シェケムの民に訴えかけたヨタム】 士師9:7

■ 逃げ延びたヨタムは、アビメレクのいたゲラル山の向かい、ゲリジム山頂からシェケムの民に呼びかけた。

■ ヨタムは寓話を用いて、シェケムの民に訴えかけた。

「木々(民)が、オリーブの木、いちじくの木、ぶどうの木
(イスラエルの歴代の士師たち)に、王になって欲しいと頼むが、ことごとく辞退される。

最後に頼んだ茨(アビメレク)は、自分を王としなければ、レバノンの杉(イスラエル)を焼き尽くすと民を脅した。」

■ 茨(アビメレク)がもたらすのは、苦痛だけということ。



エバル山頂から、
シェケム、
ゲリジム山を臨む

【ヨタムの呪い】 士師9:16～21

■ ギデオン(エルバアル)に助け出されたにも関わらず、シェケムの民は、その息子70人を殺し、女奴隷の子アビメレクを立てたと、その不義をヨタムは訴えた。

■ ヨタムは、シェケムの民の誠意と真心を問い、呪った。
9:20「アビメレクから火が出て、シェケムの住民とベテ・ミロを焼き尽くし、シェケムの住民とベテ・ミロからも火が出て、アビメレクを焼き尽くすだろう。」


■ アビメレクとシェケムの民は対立し、互いを滅ぼすとヨタムは予告すると、遠い荒野の町ベエルへ逃げた。



Ⅱ. 相殺される罪と悪

士師記9章22～57

エバル山(手前)とゲリジム山(奥)

An aerial photograph of a dry, hilly landscape. The foreground shows terraced fields with rows of small, dark trees or plants. The middle ground features a valley with a winding road and some buildings. In the background, there are large, brown mountains under a blue sky with light clouds. The overall scene is arid and rugged.

【アビメレクの支配】 士師9:22～24

アビメレクは三年間*、イスラエルを支配した。*

神は、わざわいの霊*をアビメレクとシェケムの住民の間に送られたので、シェケムの住民たちはアビメレクを裏切った。こうして、エルバアルの七十人の息子たちに対する暴虐への報いが現れ、彼らの血が、彼らを殺した兄弟アビメレクと、アビメレクに手を貸してその兄弟たちを殺したシェケムの住民たちの上に降りかかった。

* 士師時代のどの異教の民より短い期間

* 王ではなく首長の「支配」 ...王より格下の扱い。

* “悪い霊” ...悪霊すら神の許しの内でしか動けない。

■ 預言通り、アビメレクとシェケムの同士討ちが始まる。



【シェケムの反乱・訪問者ガアル】 士師9:25～29
9:25 シェケムの住民たちは、アビメレクを待ち伏せする者たちを山々の頂上に置き、また道を通り過ぎるすべての者から略奪した。やがて、このことがアビメレクに告げられた…。

- シェケムの民は、アビメレク暗殺を企て、この地を自分たちで支配することを始めた。
- ある時、エベテの子ガアルが、偶像神の祭りの期間シェケムに滞在し、町に溶け込んだ。
- ガアルは、町の長ゼブルや、町の有力者ハモルに、自分の側につくように誘った。
- さらに兵を求め、アビメレクを倒すと豪語した。



【アビメレクへの密告・待ち伏せ】 士師9:30～34

■町の長ゼブルは、ガアルの反抗をアビメレクに密告し、ガアルを待ち伏せするよう進言した。

9:34 そこで、アビメレクと、彼とともにいた兵はみな、夜のうちに立って、四隊に分かれてシェケムに向かって待ち伏せた。

■翌朝、ガアルの部隊が町を出発した直後、戦いの体制の整わないところを見計らい、アビメレクの部隊が四方から襲いかかった。



【待ち伏せられたガアルの反応】 士師9:35～39

■ 山を下る兵が目に入り、ガアルはゼブルに言った。

「見よ、兵が山々の頂から下りて来る」ゼブルは答えた。

「あなたには、山々の影が人のように見えるのです。」

ガアルは、続いて、他方からも兵が迫るのを見た。

■ ゼブルはガアルを焚きつけた。

「『アビメレクとは何者か。われわれが彼に仕えなければならぬとは』と言ったあなたの口は、いったいどこにあるのですか。あなたが見くびっていたのは、この兵ではありませんか。さあ今、出て行って、彼と戦いなさい。」

■ ガアルの部隊は、町を出て、戦いを始めた。

➡ 町に立て籠もって籠城したほうがよかっただろうが....。



手前から
エバル山、シェケム
ゲリジム山

【アビメレクのシェケム襲撃】 士師9:40～46

- アビメレク隊に押され、逃げたガアル隊は、シェケムの門に着くまでに多くが討たれた。
- ゼブルが、ガアルと身内の者をシェケムから追放したと知ったアビメレクは、アルマの町を出て、三隊で待ち伏せし、殲滅した。
- アビメレクはさらに、シェケムの町を襲撃、占領し、住民を虐殺。町を破壊し塩をまいた。作物もできないような、徹底した破壊が!!
- シェケムの中心部、本丸の堅固なやぐらにいた住民達は、偶像のエル・ベリテの神殿の地下室に立て籠もった。

援軍の当てがあった!!



【アビメレクによる大虐殺】 士師9:47～51

- シェケムの民が立て籠もったと聞いたアビメレクはツアルモン山に登り、木の枝を切り、担いだ。「あなたがたは私が何をしたかを見ただろう。急いで私と同じようにしなさい。」
- アビメレクは、地下室の上に枝を積み、焼いた。立て籠もっていた男女約千人がみな死んだ。
- シェケムを滅ぼしたアビメレクは、立て続けにテベツの町に攻めこんだ。
- テベツの住民たちは、町の中央に建っていた堅固なやぐら(城壁、神殿?!)に立て籠もった。




【アビメレクへの報復】 士師9:52～54

アビメレクはやぐらのところまで来て、これを攻め、やぐらの入り口に近づいて、これを火で焼こうとした。そのとき、一人の女がアビメレクの頭にひき臼の上石を投げつけて、彼の頭蓋骨を砕いた。

アビメレクは急いで、道具持ちの若者を呼んで言った。

「おまえの剣を抜いて、私にとどめを刺せ。女が殺したのだと私について人が言わないように。」

若者が彼を刺したので、彼は死んだ。



アビメレクの残虐さと傲慢が、
不名誉な最期を招いた

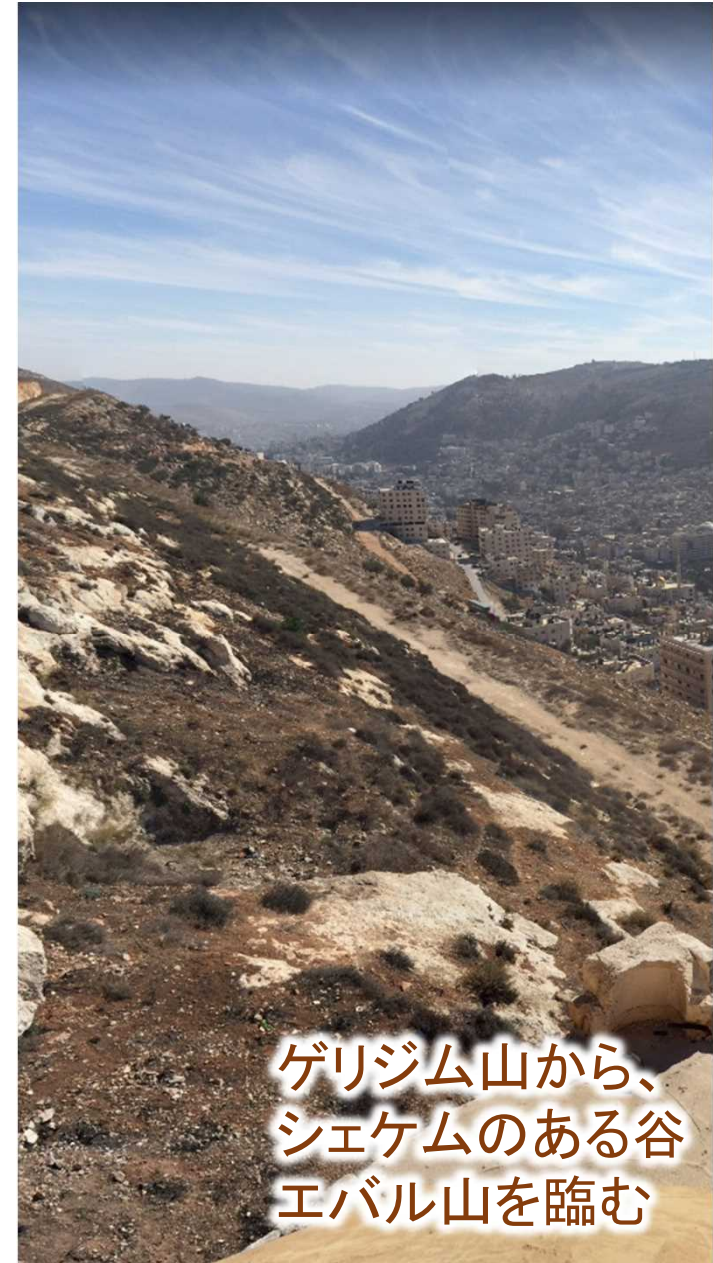
【アビメレクに返された報い】 士師9:55～57

イスラエル人はアビメレクが死んだのを見て、一人ひとり自分のところへ帰って行った。

こうして神は、アビメレクが兄弟七十人を殺して自分の父に行った、その悪の報いを彼に返された。

神はまた、シェケムの人々のすべての悪の報いを彼らの頭上に返された。エルバアルの子ヨタムなのろいが彼らに臨んだ。

- アビメレクに従っていたイスラエルの者たちは去り、3年間の支配は終わった。
- ヨタムを通して預言されたとおり、アビメレクとシェケムは、互いに相手を攻め、滅ぼしあった。



ゲリジム山から、
シェケムのある谷
エバル山を臨む

Ⅲ. 士師 トラ ヤイル

士師記10章1～5

ナザレからイズレエル平原を臨む

【士師トラ】 士師10:1～2

アビメレクの後、イスラエルを救うために、**イッサカ**人、ドドの子プワの息子**トラ***が立ち上がった。彼はエフライムの山地にあるシャミルに住んでいた。彼は二十三年間イスラエルをさばき、死んでシャミルに葬られた。

* **イッサカル**は、**ヤコブ**の**9番目**。豊かなイスラエル平原を相続地として得た。➡度々、戦場に!!

* **トラ** ...“**緋色、真紅**” 高貴な生まれ? 金持ち?

■ 華々しい戦記も、特別な出来事もない。アビメレクの時代とは違って変わり、平和を享受した平穏な時代だった。神の憐れみが豊かに注がれた。



【士師ヤイル】 士師10:3～5

彼の後にギルアデ人*ヤイル*が立ち上がり、二十二年間イスラエルをさばいた。

彼には三十人の息子がいた。彼らは三十頭のろば*に乗り、三十の町を持っていた。それらは今日まで、ハボテ・ヤイル(ヤイルの命)と呼ばれ、ギルアデの地にある。ヤイルは死んでカモンに葬られた。

*ギルアデ人 ...ヨルダン川東岸のマナセの半部族

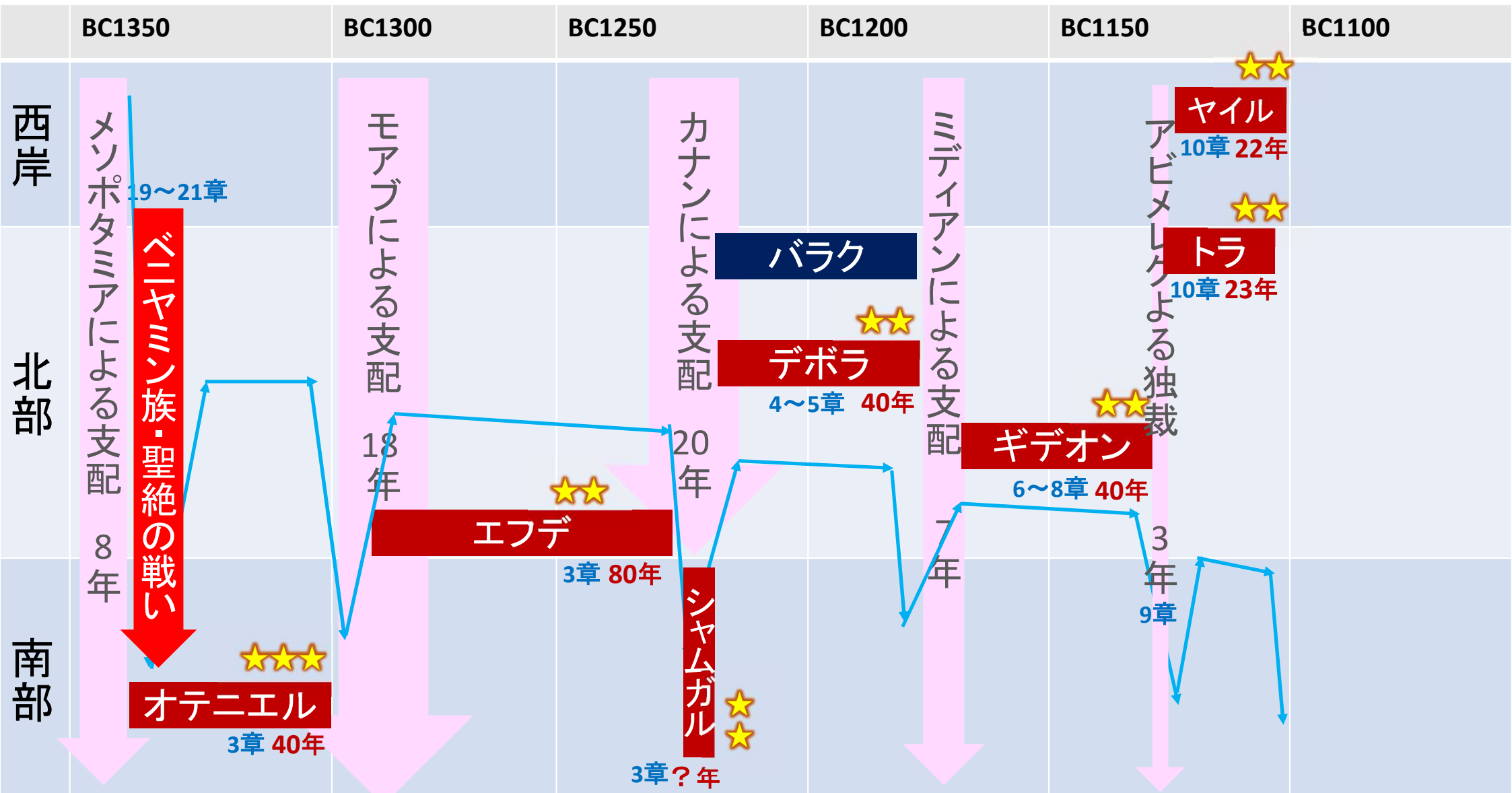
*ヤイル ...“彼は啓発する” 律法を教えた？

*ろば ...平和の象徴。高貴さを示す。

■ヤイルは、神の知恵によって統治し、繁栄した、後のソロモン王の姿に重なる。妻子が多いことも...



【士師の時代】



IV. まとめと適用

こと



シェケム

【士師ギデオンの過ちから生まれた災い】

- ギデオンが分捕り物から作ったエポデが礼拝の対象となった。
- 王になって欲しいという民の求めを拒んだギデオンだったが、シェケムの側女の子にアビメレク(我が父は王)と名づけたように、王に未練があり、多くの妻をめとり、王のように振る舞っていた。
- ギデオンの死後すぐ、イスラエルは偶像礼拝に舞い戻った。アビメレクは、その名の通り、父を継いで王になろうと謀った。
- 強欲で自滅したアビメレクとシェケム。主ご自身が背後で裁かれた。混沌の時代も、アブラハム契約のゆえ、神がイスラエルを守り続ける。

【平和の時代に信仰を守ること】

- 繰り返されるイスラエルの背教は、平和の時代にすでに始まっている。
ギデオンの治世に、混沌をもたらす偶像礼拝の種が蒔かれていた。
- 危機の時には、むしろ、私たちの信仰は強められる。
重要なのに難しいのは、平穏な日々にあって、信仰を保っていくこと。
- コロナ禍にしても、問われるのは、感染が落ち着いている時の行動。
- 何があろうとなかろうと、なすべき使命を淡々となすことが求められる。
クリスチャンの使命は、福音を告げ、御言葉を慕い求めていくこと。
→この恵みの時代、変わらぬ使命に立ち続けよう。

継続こそ信仰の命!!

【平和の時代の士師トラ、士師ヤイルに学ぶこと】

■ わずかな記述しかない二人の士師トラとヤイル。

それはかえって、二人の士師の役割の重要さを浮かび上がらせる。

■ 混沌と暴虐のアビメレクの時代を、主は守られ、二人の士師を通して、イスラエルに憐れみを注がれた。神の知恵と恵みが平和をもたらした。

■ 今、私たちには、神の知恵は御言葉を通して与えられる。

文脈に沿って聖書に学び、真実の著者である主の意図を汲み取り、聴き従うこと。その大切さは、これから重みを増していくばかり!!

■ 背教の時代の今、平和はつかの間かもしれない。私たちが聖書を学び福音を告げる使命のために、与えられた、この平和の時を生かそう。

例)和実に与えられた聖霊の賜物。しゃべれなくても。障害があっても。
それぞれに与えられた聖霊の賜物が必ずある。遣わされて行こう。

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、

①わたしの罪を贖(あがなう)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信じます。

平和(へいわ)の時代(じだい)に、信仰(しんこう)を保(たも)つことの難(むずか)しさを思います。士師(しし)トラやヤイルのように、主に従(したが)う知恵(ちえ)を 恵(めぐ)みの内(うち)に与(あた)えてください。

使命(しめい)をもって 歩(あゆ)み出(だ)すとき、すべての人に 必(かならず)与(あた)えられる 聖霊(せいれい)の賜物(たまもの)があります。

幼子(おさなご)のような信頼(しんらい)をもって
ここから一歩(いっぽ) 押(お)し出(だ)してください。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」